

「気のおけない友人との食事」「家族とのんびり団欒の一時」「お気に入りのソファ、そして本と珈琲」こんな時間をデンマークでは「ヒュッゲ」と言うそう。居心地の良さで幸せを感じる事」という意味がある。

今、欧米では、この北欧のライフスタイルが注目を浴びており、東京でもヒュッゲな人たちが増えているという。日本流にいうなら「ほっこり」。どうやら日本人には、働き方改革の前に、生き方改革が必要なかもしれない。

さて、この一見平和でのどかなライフスタイルも、実は消費税25%!福祉国家として生活の質を追求する国民の高い意識に支えられている。

さらに、日本人にとって意外なのは、徴兵制が国防を支えており、多くの国民がそれを当然の責務だと考えていることだ。国際情勢を十分に理解したうえで、現実的な危機管理を支持するデンマーク人の民度の高さが窺える。

ほっこり平和を享受する裏で、国防という責任と覚悟を共有しているのだ。

「戦争はいやだあ〜」「徴兵なんてえ〜」と、願望と感傷を垂れ流すのは容易だが、その代償は誰が背負うのか? 永田町では似非りベラルが、「9条死守」「安保法制反対」を叫び、いまや国会は茶番劇、週刊誌の延長だ。国防は悪!と決め込み、現実逃避をしなからず、仮想敵国の軍拡には意見すらしなない無責任野党の印象操作にはもううんざりだ。

スイスは、憲法を改正してまで食料安保を強化した。徴兵制も一貫している。フイ

## 『ヒュッゲ(Hygge)』

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

ンランドは建国以来、徴兵制を国防の要とし、スウェーデンも今年に入って徴兵制を復活した。ん?日本では平和の理想郷のように言われるかの国々、実のところ彼らは皆、軍国主義者なのか? いや、違う!ただただ変化する国際社会と自国の立場に、冷静に向き合っているだけだ。

みんな協同してヒュッゲを守るため、どんな社会システムが必要かを真剣に考えて実行に移す。なんという国民意識の高さだろう。

フィンランドには、オンカロという核廃棄物の最終処分場がある。決して大袈裟ではない、現実と真剣に向き合えばこそその当然の危機管理である。

平和や平穏を継続するには、不断の努力と代償が不可欠なことを国民全体が理解しているからであろう。そして何より、子々孫々、未来の同胞のために、愛をもって何をすべきかを真剣に考えている。10万年先の家族と子孫にまで責任を果たす。きっと、その意識の根底に「Hygge」があるのだろう。

幸せの有難さを共有し、居心地の良い生活を守るための覚悟が据わっている。うらやましい、心からうらやましく思う。

原発(核)、食料(資源)、軍事(紛争)、茶番どころではない現実の危機:日本人は真剣に向き合っていますか? Hyggeは未来を守る、安全保障の魂だ。



### Profile

安全保障・教育評論家/1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集  
『雲涯蒼天』  
定価700円  
Amazonにて販売中